

### 123 Tc-99m-GSA liver scintigraphy SPECT像による肝切除術のsimulation

望月 孝史、加藤千恵次、鐘ヶ江香久子、塚本江利子、中駄 邦博、志賀 哲、伊藤 和夫（北大・核）

肝切除術前に施行したTc-99m-GSA scintigraphyのSPECT画像を用いて肝切除術のsimulationを行い、術直後の肝予備能の指標と比較検討した。対象は肝切除術を実施した症例13例（肝癌11例、肝エヒノコッカス症2例）。術前のTc-99m-GSA scintigraphyのSPECT像上に切除部位と残存部位のROIを設定し、カウント比から切除率（%）を算出した。肝予備能の指標として、術前術直後のプロトロンビン時間、コリンエステラーゼの変化率と切除率との間の相関を調べ、それぞれ有意な相関（ $p < 0.05$ ）を認めた。

GSA scintigraphy SPECT像上の肝切除部位のカウント比は肝切除率を反映すると考えられた。

### 124 肝切除術前後のアシアロシンチ肝機能指標

の変動 — 線型2コンパートメントモデルによる解析 —  
長谷川義尚、野口敦司、橋詰輝己、井深啓次郎、  
若杉茂俊（大阪府立成人病センター、核医学診療科）  
山崎克人（神戸大学放射線科）

肝腫瘍患者20例について、線型2コンパートメントモデル解析により、アシアロシンチ肝機能指標を算出し、肝切除術前後の変動を検討した。肝機能指標は $k_1$ 、および $k_2$ （血液分画より肝細胞分画への、およびその逆方向の移行係数）、 $k_1/k_2$ 比、VL(3mg) ( $^{99m}\text{Tc-GSA} 3\text{mg}$ 投与時の肝分布容量)を求めた。術前、術後におけるVL(3mg)は肝硬変症7例平均1.07mg、0.97mg、慢性肝炎11例平均、1.67mg、1.55mg、正常肝機能2例、1.94mg、1.41mgであった。20例中4例で術後に明らかなVL値の増加を、8例で同じく減少を認めた。肝切除量を計測し術後肝機能予測への応用を検討した成績を述べる。